

殺虫剤

協友

スミチオン[®]乳剤

MEP 50.0%

種類名/MEP乳剤
農林水産省登録/第21949号
毒性/普通物*
有効年限/5年
危険物表示/4-2石
包装/100ml×60、500ml×20、5ℓ×4

特 長

- 有機リン系殺虫剤です。
- 作用機作はコリンエステラーゼの活性を阻害し、殺虫作用を示します。
- 害虫に対して接触効果、食毒効果があります。
- 植物に浸透性があります。
- 無人航空機による散布に使用できます。

適用害虫と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲	ニカメイチュウ第1世代	1000～2000倍	60～150ℓ	収穫21日前 まで	本剤 2回 MEP剤 3回 「種もみへの処理」 は1回、育苗箱散 布は1回、本田で は2回	散布
	ニカメイチュウ第2世代 サンカメイチュウ第3世代	800～1000倍				
	ヒメトビウンカ カメムシ類 イネツトムシ イネシンガレセンチュウ イネドロオイムシ アブラムシ類 アワヨトウ	1000倍				
	イネハモグリバエ	1000～2000倍				
	イネヒメハモグリバエ	2500倍				
	フタオビコヤガ	2000～4000倍				
	イネシンガレセンチュウ	1000倍				
		100倍	専用の種子消 毒機を用いて 乾燥種籾重量 の3%の量の希 釈液を種籾に 吹き付け処理 又は塗沫処理			
	ニカメイチュウ ヒメトビウンカ カメムシ類 イネハモグリバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ イネツトムシ	30倍	3ℓ	収穫21日前 まで	本剤 2回 MEP剤 3回 「種もみへの処理」 は1回、育苗箱散 布は1回、本田で は2回	空中散布
		ニカメイチュウ カメムシ類	8倍			800ml
300倍		25ℓ	散布			

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法				
稲 (箱育苗)	イネシンガレセンチュウ	1000倍	育苗箱 〔60×30×3cm.〕 使用土壌 約5ℓ 1箱当り500ml	硬化期～ 移植前日	本剤 1回 MEP剤 3回 〔種もみへの処理 は1回、育苗箱散 布は1回、本田で は2回〕	育苗箱の 上から 均一に散布 する				
麦 類 (大麦、小麦 を除く)	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	30倍	60～150ℓ	収穫14日前 まで	本剤 MEP剤	1回 1回	散布			
	ムギアカタマバエ		3ℓ				空中散布			
	ヒメトビウンカ	8倍	800ml				無人航空機 散布			
	アブラムシ類	8倍	800ml				無人航空機 散布			
大 麦	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60～150ℓ	収穫7日前 まで	本剤 MEP剤	1回 1回	散布			
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3ℓ				空中散布			
	ヒメトビウンカ	8倍	800ml				無人航空機 散布			
小 麦	アブラムシ類	250倍	25ℓ				収穫7日前 まで	本剤 MEP剤	1回 1回	散布
	アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60～150ℓ							散布
	ムギアカタマバエ	30倍	3ℓ							空中散布
	ヒメトビウンカ	8倍	800ml							無人航空機 散布
	アブラムシ類	8倍	800ml							無人航空機 散布
とうもろこし	アワノメイガ カメムシ類 ツマジロクサヨトウ	1000倍	100～300ℓ					本剤 4回 MEP剤 4回		
り ん ご	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700ℓ	収穫30日前 まで	本剤 MEP剤	3回 3回	散布			
	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 ナシグンバイ	1000倍								
	クワコナカイガラムシ	1500倍								
	アメリカシロヒトリ	1000倍								
な し (有袋栽培)	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700ℓ	収穫14日前 まで	本剤 MEP剤	6回 6回	散布			
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類	1000倍								
	クワコナカイガラムシ	1500倍								
	アメリカシロヒトリ	1000倍								

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法		
なし (無袋栽培)	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 ℓ	収穫21日前 まで	本剤 6回 MEP剤 6回			
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類	1000倍						
	クワコナカイガラムシ	1500倍						
	アメリカシロヒトリ	1000倍						
	ハマキムシ類 カキノヘタムシガ カキホソガ フジコナカイガラムシ オオワタコナカイガラムシ カメムシ類 イラガ類 アメリカシロヒトリ ミノガ類若齢幼虫	1000倍					収穫30日前 まで	本剤 3回 MEP剤 3回 [樹幹処理は2回]
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ(心折防止)	1000～ 2000倍	200～700 ℓ	収穫3日前 まで	本剤 6回 MEP剤 6回 [樹幹処理は1回]	散布		
	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 クワシロカイガラムシ カメムシ類	1000倍						
	クビアカツヤカミキリ			成虫発生初期 但し、 収穫3日前まで				
	クワコナカイガラムシ	1500倍		収穫3日前 まで				
みかん	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 5回 MEP剤 5回 [樹幹処理は1回]			
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシキスイ類 コアオハナムグリ フラーバラゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000倍						
	ケシキスイ類 コアオハナムグリ アザミウマ類	10倍					5 ℓ	無人航空機 散布

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
かんきつ (みかんを 除く)	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 3回 MEP剤 3回 [樹幹処理は1回]	散布
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カナタタキ ミカンツボミタマバエ ケシキスイ類 コアオハナムグリ フラーパラゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000倍				
	大 粒 種 ぶ ど う	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ				
小 粒 種 ぶ ど う	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチフトゾウムシ成虫	1000倍		収穫90日前 まで		
お う と う	アブラムシ類	1000～ 2000倍			本剤 2回 MEP剤 2回 [樹幹処理及び 灌注処理は合計 1回]	
う め	ハマキムシ類 ナシグンバイ アメリカシロヒトリ	1000倍		成虫発生初期 但し、 収穫14日前まで		
	アブラムシ類	1000～ 2000倍				
	アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	1000倍				
クビアカツヤカミキリ						
オ リ ー ブ	オリーブアナアキゾウムシ	50倍		0.3～3 ℓ / 樹	収穫 21日前 まで	
オ リ ー ブ (葉)			収穫120日前 まで			
い ち ょ う (種子)			収穫60日前 まで			
く り	モモノゴマダラノメイガ	8倍	3 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 4回 MEP剤 4回 [樹幹処理は1回]	空中散布
い ち ご	アブラムシ類	2000倍	100～300 ℓ	収穫前日 まで	本剤 2回 MEP剤 2回	散布
ほうれんそう		1000～ 2000倍		収穫21日前 まで		
	ホウレンソウケナガコナダニ					

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
てんさい	テンサイトビハムシ	1000倍	100～300ℓ		本剤 2回 MEP剤 2回	散布
にら	ネダニ類		3ℓ/m ²		本剤 1回 MEP剤 1回	
ねぎ	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ	収穫14日前 まで	本剤 2回 MEP剤 2回	散布
	アザミウマ類	700～1000倍				
	ネギコガ	1000倍				
ごぼう	アブラムシ類 フキノメイガ	1000～2000倍		収穫21日前 まで	本剤 2回 MEP剤 2回	
	アブラムシ類	700～1000倍				
たまねぎ	アザミウマ類	700～1000倍		収穫前日 まで	本剤 5回 MEP剤 5回	
トマト	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	2000倍				
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000～2000倍		収穫3日前 まで	本剤 6回 MEP剤 6回	
きゅうり メロン しろうり	アブラムシ類	1000～2000倍				
	アザミウマ類	1000倍				
すいか	アブラムシ類	1000～2000倍	収穫14日前 まで	本剤 3回 MEP剤 3回		
	アザミウマ類	700～1000倍				
かぼちゃ	アブラムシ類	1000～2000倍	3ℓ	収穫21日前 まで	本剤 4回 MEP剤 4回	空中散布
	アザミウマ類	700～1000倍				
だいず	マメシンクイガ ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ マメヒメサヤムシガ カメムシ類	20倍	800mℓ			無人航空機 散布
	ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤムシガ カメムシ類 ウコンノメイガ マメシンクイガ	8倍				
	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ マメハシムシ	1000倍	100～300ℓ			散布
	アブラムシ類	1000～2000倍				
	マメシンクイガ	1000～1500倍				

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法						
豆 類 (種実、但し、 だいず、あ ずき、いん げんまめ、 そらまめを 除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍	100～300 ℓ	収穫21日前 まで	本剤 MEP剤	4回 4回						
	アブラムシ類	1000～ 2000倍										
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍										
未 成 熟 そ ら ま め	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍		収穫3日前 まで	本剤 MEP剤	3回 3回						
	アブラムシ類	1000～ 2000倍										
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍										
豆 類 (未成熟、但 し、えだま め、さやいん げん、未成熟 そらまめを 除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍		100～300 ℓ	収穫21日前 まで	本剤 MEP剤	4回 4回					
	アブラムシ類	1000～ 2000倍										
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍										
え だ ま め	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ	1000倍						1000～ 2000倍	1000～ 1500倍	1000～ 1500倍	散布	
	アブラムシ類	1000～ 2000倍										
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍										
いんげんまめ	シロイチモジマダラメイガ インゲンマメソウムシ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000倍	1000～ 2000倍					1000～ 1500倍	1000～ 1500倍	散布		
	アブラムシ類	1000～ 2000倍										
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍										
さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000倍	1000～ 2000倍					1000～ 1500倍	1000～ 1500倍			散布
	アブラムシ類	1000～ 2000倍										
	マメシンクイガ	1000～ 1500倍										

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
あすき	アズキノメイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 ナミハダニ マメヒメサヤムシガ マメホソクチソウムシ	1000倍	100～300ℓ	収穫21日前 まで	本剤 MEP剤 4回 4回	散布
	アブラムシ類	250倍	25ℓ			
		1000～ 2000倍	100～300ℓ			
マメシンクイガ	1000～ 1500倍					
そらまめ	アブラムシ類	1000倍	25ℓ	収穫3日前 まで	本剤 MEP剤 3回 3回	
ばれいしょ		250倍				
ごんにやく	アブラムシ類	1000倍	25ℓ	収穫14日前 まで	本剤 MEP剤 3回 3回	
かんしょ	イモコガ アブラムシ類 ヨツモンカメノコハムシ	1000倍	100～300ℓ	収穫7日前 まで	本剤 MEP剤 5回 5回	
うど	アブラムシ類 センノカミキリ ヒメシロコブソウムシ ウドノメイガ ヨトウムシ					
モロヘイヤ	マメコガネ アザミウマ類 アブラムシ類 カメムシ類	1000倍	100～300ℓ	収穫14日前 まで	本剤 MEP剤 2回 2回	
わらび	ナガゼンマイハバチ					収穫90日前 まで
らっきょう	ネダニ類	1000～ 2000倍	—	植付前	本剤 MEP剤 1回 3回 〔植付前は1回、 植付後は2回〕	30分間 種球浸漬
	アザミウマ類	1000倍	100～300ℓ	収穫7日前 まで	本剤 MEP剤 2回 3回 〔植付前は1回、 植付後は2回〕	散布
	アザミウマ類 ネギハモグリバエ	8倍	1.6ℓ			無人航空機 散布
せり	アブラムシ類	2000倍	100～300ℓ	親株養成期 但し収穫 45日前まで	本剤 MEP剤 2回 2回	散布
たらのき	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブソウムシ	100倍	150～300ℓ	3～5月 株養成期		
茶	コカクモンハマキ チャノホソガ	700～ 1000倍	200～400ℓ	摘採21日前 まで	本剤 MEP剤 1回 1回	散布
	ミノガ類	1000倍				

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
まめ科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～ 2000倍	100～300 ℓ	収穫14日前 まで	本剤 2回 MEP剤 2回	散布	
	ムギダニ	1000倍					
いね科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～ 2000倍					
	ムギダニ アワヨトウ	1000倍					
飼料用 とうもろこし	アブラムシ類	2000倍		収穫30日前 まで			
セネガ				収穫14日前 まで	本剤 3回 MEP剤 3回		
花き類・ 観葉植物	アオムシ バッタ類 ハマキムシ類 アザミウマ類	1000倍		—	発生初期		本剤 6回 MEP剤 6回
	ばら	アブラムシ類 1000～ 2000倍 フラーパラゾウムシ 1000倍					
きく	アブラムシ類	1000～ 2000倍					
	フラーパラゾウムシ カメムシ類 ヨトウムシ類						
カーネーション	アザミウマ類 クロウリハムシ						
宿根かすみそう	ハモグリバエ類						
りんどう	ヒラズハナアザミウマ	1000倍					
アスター	ウリハムシ						
ソリダゴ	カメムシ類						
スターチス	コガネムシ類						
シネリア	シンクイムシ類						
斑入り アマドコロ	コウモリガ						
ききょう	ヨトウムシ						
樹木類	アメリカシロヒトリ		500～ 1000倍	200～700 ℓ	—		
	アブラムシ類 グンバイムシ類 フラーパラゾウムシ	1000倍					
	オオハリセンチュウ	500倍	—	移植前			本剤 1回 MEP剤 6回
つつじ類	グンバイムシ類 ハマキムシ類	1000倍	200～700 ℓ	—	本剤 6回 MEP剤 6回	散布	
せんりょう	アザミウマ類 カメムシ類						

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
こでまり	カイガラムシ類	1000倍	200～700 ℓ	—	本剤 MEP剤 6回 6回	散布
しきみ	クスアアナキソウムシ					
にしきぎ	ケムシ類					
しゃりんばい だいおうしょう	シンクイムシ類					
さかき	ハマキムシ類 サカキブチヒメヨコバイ		成虫発生初期			
さくら	クビアカツヤカミキリ					
さんごじゅ	ワタノメイガ		—			
げっきつ	ミカンキジラミ					
たばこ	ヨトウムシ		25～180 ℓ	収穫20日前 まで	本剤 MEP剤 1回 1回	
しちとうい	イネクロカメムシ		60～150 ℓ	発生初期	本剤 MEP剤 2回 2回	
芝	シバツトガ スジキリヨトウ	0.3～2 ℓ / m ²	本剤 MEP剤 6回 6回			
	コガネムシ類幼虫	3 ℓ / m ²				
	シバオサソウムシ			幼虫発生期		
桑	クワゾウムシ成虫	500～ 750倍	100～300 ℓ	成虫発生期		

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	総使用回数*	使用方法
水田作物 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、 セイタカアワダチソ ウ等の多年生雑草が 優占している休耕田	カメムシ類	1000倍	60～150 ℓ	本剤 MEP剤 4回 4回	散布

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- イネシンガレセンチュウの本田における防除に使用する場合、散布適期は出穂の頃であるので時期を失ないように散布してください。なお、効果を高めるためには出穂始めとその1週間後の2回散布が望ましいです。
- 水稲種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種圃に均一に付着するよう所定薬液を吹き付けて乾燥してください。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、まちがいのないようにしてください。
- 本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用してください。
- クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる4月下旬から6月頃に散布してください。成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布してください。
- かきのミノガ類に使用する場合は、幼虫が大きくなると効果が劣るので若齢幼虫期に時期を失ないように散布してください。
- 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰り返し散布してください。
-  本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので散布液がかからないように注意してください。
- 空中散布・無人航空機散布に関する注意については「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機(無人ヘリコプター等)散布・滴下に関する注意」をご参照ください。
- 本剤を希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を利用してください。

- 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさけてください。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布してください。なお、防除適期等については病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- かんきつのみかんツボミタマバ工防除に使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部および主幹部を中心とした樹の内部・樹冠下の地表面に散布するのが効果的です。
- 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壌中に十分しみ込むようジョロ等で1㎡当たり3ℓを散布してください。
- フラーパーゾウムシおよびミカンキジラミに使用する場合は、植物防疫（事務所）、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施してください。



●ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。

- ①ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散するおそれがある場合は使用しないでください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - ③関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■混用・葉害

- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用してください。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。
- りんご、なしの無袋栽培で幼果期の散布はサビ果が発生しやすいので水和剤を使用してください。
- ももの初期散布（5～6月）には葉害の出ることがあるので注意してください。
- 稲（箱育苗）のイネシンガレセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意してください。
 - ①発芽期～緑化期の使用は葉害を生じるおそれがあるのでさけてください。
 - ②軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は葉害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
 - ③土壌が極端に湿潤な場合は使用しないでください。
- なしの早生赤種、りんごの旭およびその近縁種には葉害の出ることがあるので使用はさけてください。
- 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には葉害を生じることがあるので、この時期の使用はさけてください。
- あぶらな科作物、さといも、ソルゴには葉害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には葉害を生じるおそれがあるので注意してください。

■蚕 毒

●蚕に対して影響があるので、給桑予定している桑葉にはかからないようにしてください。

■水産動植物への注意

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

- 誤飲などのないように注意してください。
- 解毒剤としては硫酸アトロピン製剤およびPAM製剤が有効であると報告されています。

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当てを受けてください。
 - 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
-   ●使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
 - 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
 - 危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。
- 貯蔵上の注意**
- 密栓し、火気をさけ、直射日光のあたらない低温な場所に保管してください。

本資料の記載内容は2025年2月10日現在の登録内容に基づいています。